8
12) 100
96

99
16

86
16

16

J.M.Thompson: Robespierre and the French Revolution., 1952

No. 19 : 1954・6・24　　Uyama Shumpei

目次	フランス革命	ロベスピエール
I. 1789	三部会召集(89.5.5) 立法議会の成立(89.6.20)	ミラボーの政策の支持者(1789)
II. 新秩序	バスチーユ陥落(89.7.14) パリ遷都(89.10.6)	民衆の自由のヨーゴ者(1791)
III. 君主制から共和制へ	国王の逃亡(91.1.20) 立法議会召集(91.10.1) パリ人民の蜂起(92.8.10)	慎重な共和主義者(1791)
IV. コンミューンとコンヴァンシヨン	公会召集(92.9.20)	パリ・コンミューンの同志(1792)
V. ジロンド派の運命	国王の処刑(93.1.21) クーデター(93.6.2)	
VI. ジャコバン政府	公安委員会設置(93.3.25)	ジャコバン主義の代表者(1793)
VII. 恐怖政治	ジロンド派の処刑(93.10.31) エベール派の処刑(94.3.24) ダントン派の処刑(94.4.6)	
VIII. 徳の共和国	最高存在と自然の祝祭(94.6.8)	
IX. ロベスピエールの逮捕	ロベスピエールの処刑(94.7.27)	ジャコバン主義の殉教者(1794)

各章の骨子

I. 1789

① 處女演説、「僧族を味方につけよ」。(89.5.16)—ミラボー支持。(P.11)

② Nîmes大僧上に対する反対演説。(89.6.6)—有名になる。(P.11)

③ 王室と、王のタイポ状に関する提案。(89.8)—ミラボーと対立。(P.13)

II. 新秩序

① 憲法の起草。—演奏権、被選挙権の点で反対。(P.P.21-22)

② 教会と国家の関係。—教会財産の国有化と僧侶の世俗化。(P.P.22-24)

③ 国家財政。—買いだめ、投機のとりしまり。(P.P.24-25)

④ 地方行政。—過度の分権の欠陥を自覚。(P.P.25-27)

Necker?

III. 君主制から共和制へ。

① 革命精神の下降。—一貫して人民の権利をヨーゴ。(P.P.28-29)

② 王の逃亡。—ミラボーに反対、ダントンに賛成。(P.P.29-33)

新しい本宿。(P.P.30-35)

Kyoto University

③ 立法議会の開会。—— 反ジロンド派、支配。（P.P. 36－38）

④ パリ人民の蜂起。（P.P. 39－41）

IV. コンミューンとコンヴァンション

① 蜂起のコンミューン。—— 共和主義ハ、ただし重点は道徳改革。（P.P. 42－47）

② 公会の選挙。（P.P. 47－50）
イ. 外敵の侵入。 ロ. 囚人の虐殺。 ハ. 選挙

③ ジャコバン派とジロンド派の対立。—— 自由は正義と平等のキソの上に。（P.P. 50－53）

V. ジロンド派の運命

① 国王の処刑。—— 裁判の必要はない。主判決と処刑をすればよい。（P.P. 55－58）

② 戦争。—— 中央集権の必要。（P.P. 58－61）

③ 6月2日のクー・デ・ター（P.P. 61－69）
イ. デュムーリュのウラギリ。 ロ. マラーの告発。 ハ. クー・デ・ター

VI. ジャコバン政府

① 公安委員会の組織。（P.P. 76－78）
イ. 成立。 ロ. メンバー。 ハ. 権能。 ニ. 地方組織。

② ジャコバン政府の政策。（P.P. 78－89） [ロベスピエールのノート]
イ. 1792年の憲法。—— ~~[illegible]~~ 停止。 ロ. 新聞、演劇。—— 統制。
ハ. 貧乏。—— 最高価格制。

③ 軍隊。（P.P. 89－93）
イ. 海軍。 ロ. 陸軍。

④ 革命裁判所。（P.P. 93－97）

VII. 恐怖政治。

① その背景。（P.P. 98－100）

② 過激派 Enragés の処刑。（P.P. 100－103）
革命軍。 非キリスト教化運動。

③ インド会社事件。（P.P. 103－105）

④ エベール派の処刑。（P.P. 105－107）

⑤ ダントン派の処刑。（P.P. 109－112）

VIII. 徳の共和国

① Prairial Law（1794. 6. 10）→ 代議士たちの反感。

② 忌避僧侶に対する penal laws（91. 12. 14；92. 5. 27；93. 8. 26）と
非キリスト教化運動（1793）→ 雄方月の反感。

「最高存在と自然の統一」を提案。（1794. 5. 7）

Kyoto University

XI. ロベスピエールの没落。

① ジャコバン政府の没落の兆。(P.P. 132－138)
イ. 民主憲法のタナナゲ。
ロ. チョーバツ的方法に対する国民の反感。
ハ. 平和回復の要求
ニ. 非キリスト教化運動に対する反感。
ホ. 経済的諸悪。
ヘ. 代議士たちの攻撃。

② ロベスピエールは味方を失った。(P.P. 138－144)
イ. 中立派。
ロ. コンミューンとジャコバン・クラブ。
ハ. 公安委員会。
ニ. 世論。

③ ロベスピエールの弁明。(P.P. 144－147)

④ タイホ、死刑。(P.P. 147－151)

X. ロベスピエール

~~Dederot~~ ~~Rousseau~~

Feuillants Girondins Cordeliers Hébertists

	Mirabeau Lafayette	Brissot	Danton	Hébert	(~~Babeuf~~)

